

名家連ニュース

平成 29 年 7 月 28 日 (金)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀田 明
TEL/FAX (052) 846-5576 NO. 474 号

名古屋市障害者基礎調査報告書から抜粋

名古屋市は今後の障害福祉施策や「第 5 期障害福祉計画」策定に関わる基礎的な資料とすることを目的に身体障害者、知的障害者、精神障害者、発達障害者、高次脳機能障害者、難病の方を対象に生活実態や現行施策の評価、サービス利用状況や意向・ニーズ調査を実施し、平成 29 年 3 月、調査結果の報告書が公表されました。その中で精神分野に関する部分を一部抜粋してお知らせします。

○あなたは現在仕事をしていますか

仕事をしています	仕事をしていない	回答なし
30.1%	67.0%	2.9%

○仕事をしていない方は昼間どのように過ごしていますか

自宅療養	家事手伝	デイケアなど	入院	福祉施設	就労訓練など
42.7%	14.2%	12.9%	7.6%	4.3%	3.6%

○手帳の障害等級は何級ですか

1 級	2 級	3 級	回答なし
3.7%	60.4%	29.0%	6.0%

○あなたは障害支援区分の認定を受けていますか

受けている	受けていない	回答なし
11.1%	61.2%	27.7%



命に優劣はない!!

愛知障害フォーラム「講演」と「シンポジウム」開催

「ともに生きる」
名古屋でシンポ

250人が参加

相模原市の障害者施設で入所者19人が殺害された事件から26日で1年。愛知県内の29の障害関連団体でつくる「愛知障害フォーラム」が22日、名古屋市中区の朝日ホールで、障害があってもなくても住みやすい社会を考えるシンポジウムを開いた。約250人が参加し、ともに生きる社会について考えた。

シンポに先立って講演があり、東大先端科学研究センターの熊谷晋一郎准教授が「19人の仲間を失った私たちが、より良い社会をつくる責任を負っている」と語った。事件の原因を加害者や施設だけに求めるのは、「敵を見誤っている」という。

また、健常者が自立して

講演する熊谷晋一郎准教授



いるように見えるのは依存できる制度や設備が多いからで、障害者の依存先は限られていると指摘。「依存こそが実は自立につながる」として、障害者の依存先を増やす社会づくりの重要性を説いた。

シンポでは熊谷准教授ら4人が登壇。事件後、施設の防犯強化が進んでいることに触れ、「かえって障害者を特別な人にしてしまふ」などの意見が出た。社会に役立つかどうかで命に優劣をつける「優生思想」への対抗策として、能力の有無と命の価値を切り離して考えることなどが提言された。